



金沢星稜大学11代目学長 大久保 英哲^{ひで あき}氏就任

大久保 英哲(中央)プロフィール

1950年青森県生。1982年筑波大学大学院体育研究科修了。1997年博士(学術)。盛岡大学講師、金沢大学助教授、教授。2015年名誉教授、金沢星稜大学特任教授。2020年金沢星稜大学女子短期大学部学長を経て、2022年より現職。専門は体育・スポーツ史。「明治期比較地方体育史研究」「纏足から天然足へ 日本統治前期台湾の学校女子体育」「箱根駅伝を超えようとした幻の能登駅伝」ほか著書・論文多数。スキー・スケート、テニス、ウォーキングを趣味とする。「学長コラム」を大学WEBサイトで公開している。

CONTENTS

大学学長・同窓会会長、副会長 座談会	2・3
人文学部の紹介	4
「シンポジウム ポストコロナ時代の地域イノベーション」の富山開催について	5
活躍する同窓生	6
池田教授 インタビュー	7

大学のさらなる発展には 同窓生の応援が不可欠

4月、金沢星稜大学11代学長に大久保英哲氏が就任しました。上野雅司大学同窓会会長と端保聡同副会長が大久保学長を訪ね、大学の現状やあり方、同窓会に期待することなどを伺いました。

学園創設者の思いが 社会で大きな実を結ぶ

上野会長(以下上野) 就任された感想からお聞かせください。

大久保学長(以下大久保) おかげさまで金沢星稜大学は、各方面から高い評価をいただいております。改めて同窓生の先輩方一人おひとりの社会での活躍の賜物だと思っております。今年10月、稲置学園は創立90周年を迎え、創立以来、教職員や学生、生徒が長い歴史の中で受け継いできた建学の精神「誠実にして社会に役立つ人間の育成」に基づいた実学教育がしっかり地域に根を張り、花を咲かせ、実を結んだ結果でもあると思っております。さかのぼれば、学園のルーツとなる1932(昭和7)年の北陸明正珠算簿記専修学校の誕生にも、今の学園の発展につながる初代稲置繁男理事長の強い思いを感じました。

上野 初代理事が学園創設時に込めた思いとは、どのようなものだったのでしょうか。

大久保 1929(昭和4)年の世界恐慌後、国内外ともに混沌とする中、北陸明正珠算簿記専修学校は、明瞭な珠算と正確な簿記を身に付け、地域で役立つ人材の育成を目指して開校しました。校名に掲げられた「明正」をより具現化したものが今の建学の精神だと思っております。



端保副会長(以下端保) 明瞭で正確なことは、ビジネスシーンに限らず、生きていくうえで人から信用を得るためにもとても大切なことですね。

上野 実は大学の学歌「白山の虚空を翔ける」の中にも建学の精神が歌われていて、すっかり自分の体の中にしみ込んでしまっています(笑)。

昨年、大学同窓会は50周年を迎え、会員が2万1,000人を超える大きな組織となったものの、学園創設者の思いが今も脈々と受け継がれていることは本当に嬉しいことです。

地域の人と一緒に学び 地域とともに成長する

端保 本当ですね。先ほど学長がおっしゃられたように学生が机上の勉強にとどまらず、地域社会と関わりを持ちながら活躍する様子がマスコミで報道されているのを目にすると同窓生の一人として誇らしい気持ちになります。

大久保 ありがとうございます。金沢星稜大学の学生は、積極的に街に出かけて、地域や企業の課題と向き合いながら、学びを深めていることが強みとなっています。人文学部の学生が通訳のボランティアや英語教育プロジェクトチームを編成し小学生に英語学習を提供したり、ボラ待ちやぐら(伝統漁法)の修復を手伝ったりと、このような活動は地域の方々に喜ばれるだけでなく、学生もその後の仕事選びにも役立っています。



上野 地域や大学、学生とそれぞれにメリットがあり、どのプロジェクトも喜びの輪がどんどん広がっていて素晴らしいです。ほかにも学生たちが単位認定されていない雪かきや海岸清掃などのボランティア活動にも精力的に取り組んでいて、こちらも頭が下がる思いです。

同窓生と学生が交流できる カフェスタイルの同窓会室を

端保 きっとこうしたフィールドワークが就活でも大きな自信となり、金沢星稜大学の高い就職率や公務員の増加にもつながっていると思います。ただ水を差すような話で申し訳ないのですが、同窓生と学生がふれあう機会がほとんどないのが残念です。

大久保 おっしゃる通りです。同窓生がふらっとキャンパスに足を運べる場所がまず必要だと思っております。誰でも気軽に入れるカフェのような同窓会室を設け、同窓生がいつでも



1部19期卒

端保 聡 同窓会副会長

1部3期卒

上野 雅司 同窓会会長

大久保 英哲 学長

訪れやすい大学にしたいです。

上野 本当にありがたい話です。同窓生も「何か学生の力になりたい」と思っても、これまでは一步を踏み出すハードルが高かったように思います。同窓会室ができれば、同窓生の思いも伝えられるし、学生の思いもくみ取ることができそうです。

大久保 先輩方からの辛口のご意見も大歓迎ですよ。母校への関心や愛校心があればこそのご意見だと思っております。“同窓生の応援なくして、金沢星稜大学の発展なし”の思いです。

端保 同窓生も幅広い分野で活躍しているので、学生の希望があれば、いろいろな同窓生を紹介できます。コロナ禍もだいぶ落ち着きつつあるので、学生との交流が待ち遠しいです。

コロナの経験を生かし 同窓会の発展につなげる

大久保 心強いお言葉ありがとうございます。コロナは大学にとって決してマイナスの側面ばかりでなく、プラスなこともありました。例えばオンライン授業では、教員が学生一人ひとりの表情を確認しながら講義を進められたり、学生は集中して講義を聞くことで、質問が増えたりと、教員と学生に多くの気づき

を与えてくれました。加えて、未曾有の事態に直面した際、大学としてもスピード感を持った対応の大切さも学ばされました。

上野 実際、金沢星稜大学ではどのような対応をされたのですか。

大久保 北陸の大学でいち早

く、オンライン授業の学修環境を整える支援費として、学生の皆さんに一律3万円支給しました。また、教職員には、オンライン授業の機器の取り扱い講習会を並行して進め、学生も教員も安心してスムーズにオンライン授業に移行できました。

上野 学生を第一に考えたスピード感のある対応、今後もコロナで学んだことを生かしていきたいですね。同窓会も北陸以外にいる同窓生が孤立しないようWEBをより一層上手に活用しながら情報発信していきたいと思っております。最後に私からのお願いになりますが、同窓生と学生、学園の心を一つにする取り組みができないかと思っております。

同窓生と学生が肩を組んで 学歌を歌う日を夢見て

端保 かねてから会長がおっしゃっているみんなで肩を組んで学歌を歌うことですね。学生時代、神宮球場で東京六大学の華やかな応援と、同窓生や在校生が声高らかに学歌を歌う姿を見て、鳥肌が立つほど圧倒されました。とりわけ慶應義塾大学の一体感には感動しました。

大久保 同窓生と学生の心を一つにするために音楽(学歌)を活用するアイデア、とてもいいですね。金沢星稜大学は、硬式野球部や空手道部、剣道部など全国大会で活躍する運動部も多く、今後、学歌を歌う場面も増えてきそうです。

上野 いきなり大編成でなく、小編成からでいいので、大学の入学式や学位授与式、謝恩会、運動部の壮行会などなるべく多くの学生の目にふれる場で、迫力ある吹奏楽団の演奏と学歌を地道に浸透させていくことが大事だと思っております。

大久保 本日は貴重なご意見やご提案をたくさんいただき、ありがとうございました。



早期の留学経験が自信を生み 就職も人生もプラスに

2016年、グローバル人材の育成を目指して人文学部国際文化学科が設置され、2020年には1期生33名が社会に巣立っています。新学部に込めた思いやコロナ禍での取り組みなど副学長兼人文学部長の田中富士美副学長と国際交流課の井下桂子課長にうかがいました。



国際交流課
井下 桂子 課長

田中 富士美 副学長兼
人文学部長

CAやキャスターなど 幅広い分野で活躍

—国際文化学科の実質就職率(2020年度)97.2%は、全学部でもトップの高い実績を誇っています。実際、どのような方面や企業に進んでいるのでしょうか?

田中 1期生はキャビンアテンダント(CA)や英語教員、テレビ制作会社などに就職し、2期生は新型コロナウイルスの影響を受けたものの、最後まで粘り強く就活に取り組み、大手IT関連会社や物流会社などに就職しています。3期生には、憧れだったニュースキャスターになった学生もいます。また、毎年、大学院に進学する学生がいますが、イギリスの大学院3校から入学許可をいただき、海外で研究することを選択した学生もいます。本学在学中に身に付けた語学だけでなく、異文化体験で培った知識と経験を生かし、幅広い分野で自分の夢にチャレンジしています。



井下 海外留学の経験が大きな自信となり、学生同士がお互いに刺激を与え、切磋琢磨する関係が就職や進学にもいい影響を与えているように思います。

留学後の成長は著しく 地球が小さく感じる

—国際文化学科の留学プログラムは、ユニークな取り組みが話題となっているそうですね。

田中 はい。通常の大学ならば2年次後半か3年次に留学させるのが一般的です。しかし、本学では1年次後半から2年次前半までに約4~8カ月、学部生全員が海外留学します。しかも、就活の妨げにならないよう2年次の夏休みまでに帰国するカリキュラムとなっているので、学生は安心して留学先で勉学に励むことができます。早めに留学することで、本当に自分のやりたいことを見つめ直したり、進むべき専門内容を考えたりするいい機会にもなっています。

井下 本学ではアジア、欧米、オセアニアにある58大学とネットワークを持ち、現在渡航可能となった国にある6つの大学に留学しています。日本語から離れ、生きた語学力を身に付けるため、学生ができるだけ同じ大学に集中しないように配慮しています。

田中 留学から戻ってきた学生の成長には、いつも驚かされます。“地球が小さくなっている”そんな感覚を留学後の学生を見ていて感じます。

井下 留学後、少し休みがとれれば、貯めたアルバイト料で海外旅行に出かける学生も多いですね。それもトルコやエジプトなど比較的日本人観光客が少ないところで、本当に頼もしい限りです。現在は、新型コロナウイルスで思うように留学や海外旅行ができず残念です。



—コロナ禍で留学に影響は、ありませんでしたか。

田中 現3年次だけが海外渡航をすることが全くできませんでしたが、オンライン留学という形で提携校のプログラムを集中的に学習し、さらに現地のクラスメートやホストファミリーと交流を深めました。可能な限り異文化体験ができるようにはしたものの、五感で感じとる現地ならではの留学体験を学生に提供できなかったことは、今でもはがゆい思いです。

自分のやりたいことは 諦めずにチャレンジを

—今後、学生や卒業生に期待していることを教えてください。

田中 常に変わりゆく世界の中にいますが、日本にいてもグローバルに活躍することができます。どんな状況でも諦めず、自分のやりたいことにとことんチャレンジしてほしいと思います。

井下 教職員と学生の距離が近いアットホームなところが本学の特長で、卒業後でも在学中と変わらず大学を訪れ教職員に相談できるところも強みです。自己肯定感が増していく学生や卒業生の成長を見ているとこちらも元気をもらえます。

「シンポジウム ポストコロナ時代の地域イノベーション」 の富山開催について

金沢星稜大学では、地域に開かれた大学を目指し、本学の研究および教育活動によって得られた知的資源や地域貢献の成果を積極的に情報発信していくことを目的に、毎年公開市民講座を実施し、学内外のどなたでも参加できる学びの場を提供しています。

2022年度は全8回の講座を開催することとしており、各専門分野の研究者が講師を務め、わかりやすく解説していくこととしています。

特に、今年度は稲置学園創立90周年の節目の年であり、本学が石川県にとどまらず北陸の「地域中核大学」として飛躍する意志を広く情報発信する絶好のタイミングととらえています。

そんな折、高岡市に社屋がある読売新聞北陸支社から、同社が行っている大学連携事業の一環として、富山県内でのシンポジウム開催のご提案があり、本学としてもそのような機会を模索していたことから、今年度の市民講座うち1回を公開シンポジウムとして富山市で開催することになりました。その概要は下記のとおりです。

シンポジウム ポストコロナ時代の地域イノベーション

- 日 時 2022年9月17日(土) 13:30～15:30
- 場 所 パレブラン高志会館(富山市千歳町1-3-1) ※ JR富山駅正面口より徒歩10分
- 内 容

基調講演 敷田 麻実 (北陸先端科学技術大学院大学知識マネジメント領域教授)
ポストコロナ時代の地域経営および地域資源戦略(仮題)

パネルディスカッション
美術・工芸と観光産業の地域イノベーション

司会進行 新 広昭 (金沢星稜大学副学長・教授)

パネラー 本康 宏史 (金沢星稜大学教授)
明治の輸出産業を支えた越中・加賀のイノベーション

能作 千春 (株式会社能作専務取締役)
能作のチャレンジー伝統産業に軸をつけるー(仮題)

石川 美澄 (金沢星稜大学准教授)
南砺から考えるこれからの観光と地域

コメンテーター 敷田 麻実



敷田 麻実 教授



新 広昭 副学長・教授



本康 宏史 教授



石川 美澄 准教授

敷田教授プロフィール

石川県加賀市出身、北海道大学観光学高等研究センター教授を経て、2016年に北陸先端科学技術大学院大学教授に就任。専門はエコツーリズムと地域マネジメント。公職として環境省中央環境審議会自然環境部会委員など多数歴任。現在は石川県の観光創造塾を担当。

シンポジウムでは、北陸の地域経済が歴史的にイノベーションを起こしながら発展してきたプロセスをたどりつつ、コロナ禍で大きな打撃を受けた現代において、DXやデザイン思考といったツールを使い、再びイノベーションを起こしながら再生・成長していく道筋について登壇者と来場者とで考えていきたいと思います。

話は少し横道にそれますが、今年6月に公表された日本経済新聞社の調査による「価値ある大学 就職力ランキング 2022-2023」において本学が入学定員1500人以下の小規模大学のランキングにおいて全国1位となりました。このランキングは全国746社(回答社数)へのアンケート調査をもとに作成したもので、調査内容は企業の人事担当者が入社した学生の行動力、対人力、知力・学力、独創性の4側面について5段階評価をしたものです。この4側面内、本学は行動力、対人力で1位、独創性10位で総合1位という結果でした。これは、これまでの本学の教育、研究、就職支援の活動が高く評価されたものと受け止めると同時に、同窓生の皆さまの社会でのご活躍の賜物と感謝する次第です。

しかしながら、本学はこの評価に慢心することなく、このシンポジウムをキックオフとして、SDGs、地域創生、データサイエンスといったキーワードのもと、学園創立100周年を目指し更なる進化を遂げていくこととしていますので、本学同窓会の皆様におかれてはぜひ本シンポジウムに足をお運びいただければ幸いです。

お申し込み方法

お申し込みは、下記のお申し込み URL、または QR コードよりご登録ください。
お申し込みフォーム URL <https://business.form-mailer.jp/fms/7855f6ea174333>
メールの場合は①氏名②電話番号③ご住所(市町村名まで結構です)④所属(特になければご記入不要です)をご記入のうえ、総合研究所のメールアドレスへお送りください。
個人情報(本シンポジウム開催業務以外)には使用いたしません。
上記方法でお申し込みができない方は、下記までご連絡ください。



金沢星稜大学総合研究所

〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10番地1 Email:seiryu-research@seiryu-u.ac.jp Tel:076-253-3984 Fax:076-253-3998

活躍する同窓生



1部18期生
松多 義彰

昭和63年に大学を卒業して早30年余りたちます。私が通っていた頃は学校の周辺は、まだまだレンコン畑や空き地が沢山ありました。私の娘2人も星稜中学、高校に進学したので、たまに学校へ行くと、学校は近代的な建物にかわり、周辺も様変わりしているのを見てびっくりしています。

私は学生時代あまり良い生徒ではなかったと思います。毎日バイトに明け暮れ学校にはただ何となく行っていたと思います。しかし、学生生活での友人だけは沢山でき、それがとても楽しかった思い出であり財産になっています。大学3年生になると小西ゼミに入りました。小西ゼミでの同級生や先輩、後輩との活動が今の自分を作る基礎になっているのではないかと思います。また小西先生も劣等生の私を温かく指導し見守ってくれていたと思います。先生とは卒業後も仕事での相談で色々とお会いすることもありました。私は卒業後、トヨタビスタ石川(株)に就職しました。その後家業の建材業の会社入りしましたが、父が建材業を廃業した為、私は以前から習っていた整体をベースに株式会社アトラスを起業しました。現在は株式会社アトラスホールディングスグループのCEOとして日々仕事をしています。事業としては整体・エステ・トレーニングジ

ム・サプリメント企画、販売などを行っています。整体は全国にお客様がおり、弟子が30名以上いて展開をしています。最近は整体のスクールもやっています。



また、海外事業として1995年からミャンマーそして2004年に上海で現地企業を設立しています。特にミャンマーではタクシー車両を50台現地に持って行き、タクシー事業を始め印刷会社の立ち上げ、飲食店などもやりましたが、現在はトレーラーでの物流事業と道路の白線引きなどの事業を行っています。日本政府が開発したティラワ工業団地の白線引きも弊社が施工しました。残念ながら現在のミャンマーは今年の軍事クーデターにより経済はまだまだストップしていますが、この危機も何とか乗り切れるように頑張っています。このようなミャンマービジネスを立ち上げマーケティングしたりすることも、小西ゼミでのマーケティング理論がとても役に立ったと思います。このような私の可能性や起業精神を引き出して頂いた小西滋人先生と大学には感謝しています。これから社会は



もっと多様性が出て来ると思います。星稜大学にはそのような社会でも自分で創造し活躍できる人を育てて行ってほしいと願っております。

「ペットシッター」というお仕事



1部21期卒
木谷 章子

北陸ではまだ聞きなれない職業です。近年のコロナ禍も拍車をかけ、子供の数よりもペットの数が多くなった今、犬や猫も15年以上長生きするようになりました。

その間に、飼い主さんやその家族が入院したり、旅行に行ったり、冠婚葬祭など色々なことがあります。

また一人暮らしの場合は、実家に帰省や出張に行かなければなくなったりという機会が、多くの方に訪れます。

そんな時、猫やストレスに弱い小動物などはお家に何って、

また犬の場合は性格や状態によって、飼い主さんに代わってお世話をさせて頂くお仕事です。

その他、免許を返納した高齢者や車をもたない方が動物病院やトリミングの送迎にご利用いただけるように、ペットタクシーの運行や、自宅にて夜も一緒にドッグホテルなど、その時に応じて飼い主さんもペットもストレスがなるべく少なく過ごせるようにお勧めしてご利用頂いています。

ペットは大切な家族です。飼い主さんもペットも安心してその間を過ごすことができ、すぐに元の生活に戻れることが大切です。

命をお預かりしているという大きな責任を感じつつも、日々このお仕事に巡り会えたことに感謝しております。

“子ども心を持ち続けた大人でありたい!” その一心で学生と駆け抜けてきた40年

前身の金沢経済大学時代から非常勤講師（1年）を含め40年間に亘って教壇に立ち続ける人間科学部の池田幸應教授。野外スポーツ部を創設したり、地域課題と向き合うゼミナールの活動が自治体や各種団体から数多く表彰されたりするなど今もエネルギーに幅広い方面で活躍されています。池田教授にこれまでの学生との思い出や教育への思いなどを語っていただきました。



池田 幸應 教授

(いけだ ゆきお) 1959年石川県金沢市生まれ。1984年金沢大学大学院教育学研究科修了。同年4月金沢経済大学に勤務し、助手、講師、助教授を経て2002年金沢星稜大学経済学部教授。2007年から同大学人間科学部教授。専門は野外教育学、スポーツ教育学、地域ボランティア学、地域活性化学。趣味は自然散策、オートバイツーリング。

学生と間違われた 最初の10年間

—大学で教鞭をとられて40年、振り返ってみていかがですか。

本当に早いものですね。気づけば専任教員の中で最も古くなっていました。40年前は大学周辺もハス畑が多く、研究室の窓の隙間から入ってくる土ぼこりで机上が白くなり、それを拭くのが一日の始まりでした(笑)。とりわけ独身時代は、土日も自宅にはあまりおらず、多くの地域活動や遊びに行くなど学生たちと一緒に過ごす時間が楽しかったですね。おかげで教員になっても10年ぐらいは、謝恩会でもよく学生と間違われました。

今も当時からの授業出席簿を全部保管していて、名簿や出欠状況、成績などを見ると、当時の学生との思い出がどんどん蘇ってきます。

—今も卒業生と交流はありますか。

時々卒業生が研究室にふらっと顔を出してくれます。一番古い卒業生はもう還暦に近づいていますが、中小企業の社長をしていたり、銀行の支店長になっていたりと社会で活躍している姿を見ていると本当に頼もしく感じます。ただ会えばすぐお互い当時の話し方に戻ってしまいますが(笑)。3年前には卒業生が還暦のお祝いをサプライズでしてくれ、卒業生やその家族など数十名も集まってくれました。赤いちゃんちゃんこを着せてもらい、恥ずかしさもありましたが、教員冥利に尽きる一生の思い出です。

—学生との距離がすごく近いですね。これまで教育で心がけてこられたことは？

学生も教員もまず同じ一人の人間であることを学生と向き合う時にいつも心がけています。名刺にも書いていますが、信



条は“子ども心を持ち続けた大人でありたい!”です。

「名刺に信条を書き込むことで、相手に自分のことを早く理解してもらいやすいですね」と池田教授

遊びも突き詰めれば 学びや発見が多い

—野外スポーツ部そして学生赤十字奉仕団は、先生の信条が形になったものと言えますね。

結果的にそうなりますね。設立当時は課題演習「遊びを科学する」で各自テーマに掲げ、サーフィンやカラオケでも好きなことをとことん調べて(例えば、サーフィンならばなぜボードはあの様な形状なのかとか)、自分なりの研究結果をみんなの前で発表してもらっていました。それをきっかけに24年前に同好会からスタートし今では部員数は70名を超え、人数の多い部となっています。また同時期創設の学生赤十字奉仕団についても約60名の学生の皆さんが応急対応や防災、献血推進など日本赤十字社と継続活動しています。

—池田ゼミナールでは、地域課題の解決に向けた取り組みにも力を入れていますよね。

例えば過疎高齢化の進む能登では、伝統的漁法に必要なボラ待ちやぐらの復元や祭りなどのサポート活動を通して、地域の人とふれあい、関係人口の拡大にも貢献できればと思っています。一方で、地域の環境



穴水町の漁師、地元高校生と金沢星稜大学の学生が設置したボラ待ちやぐら

を活かした自然体験活動や環境保全活動を通して子どもたちと学生たちとの交流場面では、お互いの目がキラキラしていて、気づかされ、教えられたこともたくさんあります。

社会に役立てる喜びが 自分の喜びにつながる

—最後に卒業生にメッセージをお願いします。

相手の顔色を見ず(相手の気持ちは察しつつも)、自分の思うままに誠実に実践してください。そうすればきっと何かが変わり、社会に役立てる喜び(建学の精神にもつながる)が自分に返ってくるはずです。

2021年度 富山県支部活動報告

コロナ禍で延期となっていた富山県支部の懇親会が2021年11月6日（土）に射水市大門総合会館で開催され、支部長や役員、同窓生など10名が参加しました。例年であれば、講師役に金沢星稜大学の先生を招いた講演会を実施していましたが、まだコロナも油断できない状況だったので役員で協議のうえ、今回はやむなく見送ることになりました。

懇親会では、1年延期となった東京オリンピック・パラリンピックの富山県勢選手の活躍の話題で盛り上がり、コロナで仕事や生活のスタイルが変わったことを報告し合ったりと、有意義な時間を過ごしました。最後に参加者で2022年にはコロナが収束し、次回はアルコールありの懇親会の開催と再会を誓い合っ、閉会となりました。



大学の今 新しい学びの構築

2021年度新生より全学生にタブレットを貸与。デジタル社会に適応できる人材の育成を推進しています。

デジタル技術を活用することで、AI導入などの大きな社会変化にも対応できる人材の育成を目指しています。

その一環として、2021年度より、「e生活文具」として、新生全員にタブレットを無償で貸与。授業の事前・事後学修や、参考資料の閲覧、課題提出、遠隔授業の受講に加え、学外でのフィールドワークなど、学修における様々な場面で活用します。

本学では、2021年度以降も対面授業と遠隔授業を併用して実施します。これまで、とりわけ大人数講義では、先生から学生への一方の授業が多く、学生が受け身で学ぶスタイルでした。そうした受け身の知識のインプットに遠隔授業を活用し、対面授業では、少人数でのディスカッションなどに特化したアクティブラーニングを積極的に実施します。本学が目指すのは、コロナ禍における社会情勢の変化へスムーズに対応できることに加え、多様で高度なデジタル技術を積極的に活用することで、自ら「学び」、自ら「考え」、自ら「判断する」、能動的な学修スタイルを確立することです。

学修管理システムの更新・新規導入などの環境整備を進め、大学全体として、リアルとオンラインの区別なく、いつでも・どこでも、能動的に学んでいける、これからの時代に求められる新しい学びのスタイルの構築に向けた取り組みを行っていきます。



同窓会からのお知らせ

同窓生に向けて広告を掲載しませんか？ 掲載料は無料です。

同窓会では、以前より計画しておりました設立50周年記念同窓会をコロナ禍の為にリアルでの開催を断念し、WEB上での記念特設サイトを立ち上げる運びとなりました。現在、今秋公開に向けて様々な企画を立案中ですが、そのひとつとして卒業生である会員の皆様それぞれのお仕事を応援するために、無料でPRできるコーナーも準備しております。コロナ禍による売上減少や停滞する営業活動に少しでもプラスになるようなきっかけづくりを目的としています。またお仕事に限らず、趣味などのメンバー募集や、近況報告・応援メッセージといった内容でも結構です。

何がきっかけでどう展開するかわからないのが人の縁です。SNS全盛の昨今ですが、金沢星稜大学同窓会というつながりの中で、貴方も是非参加し情報発信してみても如何でしょうか。

記念サイト公開日時のお知らせにつきましては皆様のメールアドレス宛にご案内しますので、ご希望の方は同窓会HPの「住所変更・お問い合わせフォーム」よりご登録ください。

詳しくはこちら

金沢星稜大学同窓会

